



百日咳について



☆どんな病気？

百日咳菌と呼ばれる細菌がのどなどについておこる感染力のたいへん強い感染症です。多くの場合、家族や周囲の人から感染します。大人でも学校や職場で集団感染することもあります。問題は、赤ちゃんをはじめ家族にうつすことです。母親からもらう免疫力が弱いために新生児でもかかることがあり、6か月以下とくに3か月以下の乳児が感染すると重症化します。今でも、年間1万人くらいかかっていると推定されます。年長児や大人でせきが長引くときは、百日咳のこともありますので、医師にご相談ください。

☆予防は？



四種混合 (DPT-IPV) ワクチンで予防します。生後3か月から4週間隔で3回受けると予防効果が高くなります。1年後の追加接種までしっかり接種しましょう。

☆就学前の接種について

小学校入学後の百日咳患者さんが増えています。四種混合ワクチンの接種者の抗体低下による百日咳の感染が心配な場合は、MR ワクチンの2期の時期に合わせて三種混合ワクチンの任意接種をお勧めします。

☆2種混合 (DT) ワクチンの接種について

11～12歳には、ジフテリアと破傷風予防の2種混合ワクチンを接種します。2種混合ワクチンには百日咳ワクチンが含まれていないために、百日咳の抗体価が下がり百日咳が流行する問題があります。百日咳にかからないために、2種混合ワクチンに代わって3種混合ワクチンの任意接種をお勧めします。



宮崎県は、高知県について全国2番目に人口当たり罹患者数の多い県です。

当院では**任意接種**になりますが、2種混合ワクチンから3種混合ワクチンへの変更と年長児での3種混合ワクチン追加接種を奨めていきたいと思っております。ご希望の方は当院スタッフまでご相談下さい。

(知ってなっ得！感染症の予防参照・子どものVPD参照)

